

経営比較分析表（令和4年度決算）

京都府 精華町

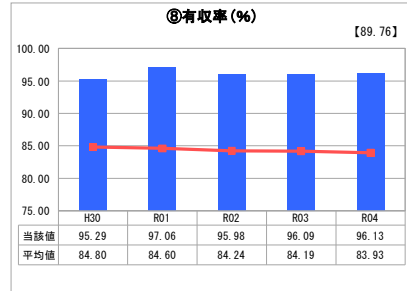
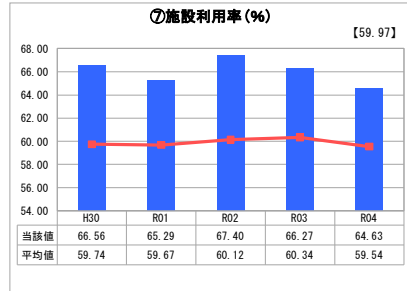
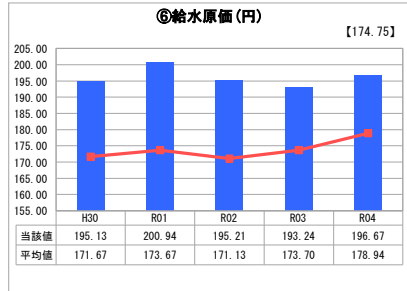
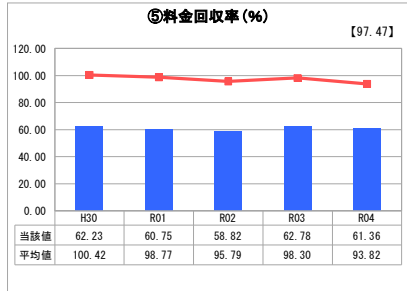
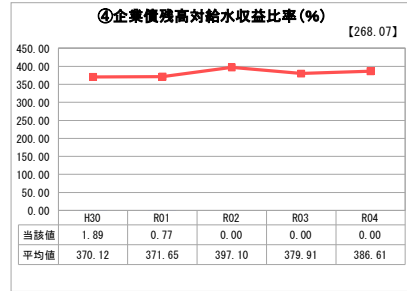
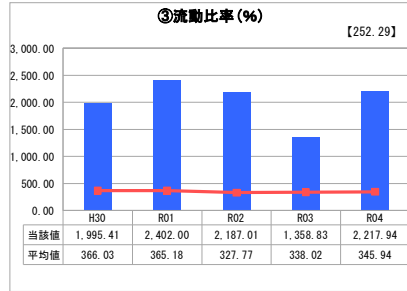
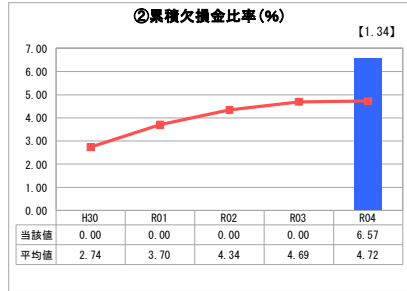
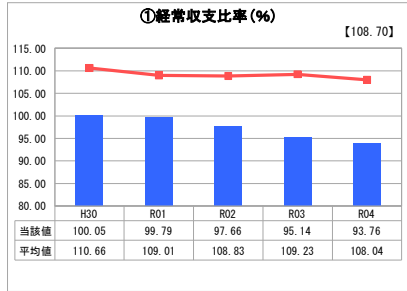
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	90.39	99.76	2,106	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
36,790	25.68	1,432.63
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
36,561	13.50	2,708.22

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、令和3年度より費用が減少した一方で収益も減少し、令和3年度に引き続き経常損失が発生した。また、5年連続で純損失を計上したことにより、令和4年度は欠損金が発生した。

② 流動比率は、100%を大きく上回っており、現状では短期的な債務に対し、これに必ず現預金等の流動資産を十分に有している。

③ 企業債残高対給水収益比率は、新たな借入れを行わなかったためゼロである。

④ 給水原価は、令和3年度より費用は減少したが、有収量の減少率の方が大きかったため増加した。一方、供給単価は減少したため⑤料金回収率は61.36%に低下し、低廉な料金設定の影響などにより過去5年間に60%前後を推移している状況である。

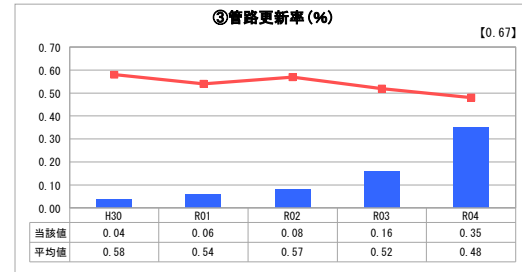
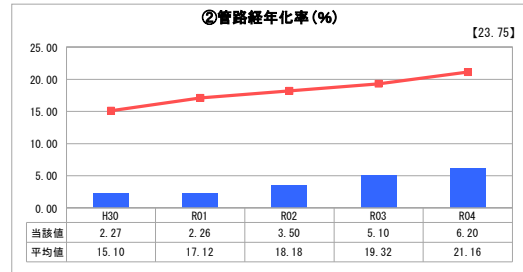
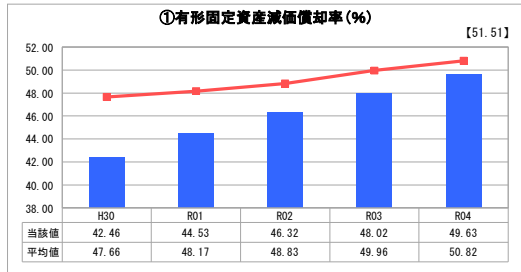
⑤ 施設利用率は、令和3年度より一日平均配水量の減少により微減となった。現状は、季節による水需要の変動を考慮しても最大73%の利用率であり、将来の給水人口の動向を踏まえ、引き続き適切な施設規模の検討を進めていく必要がある。

⑥ 有収率は、計画的な管更新の実施などにより、漏水発生が抑えられ100%に近い水準を維持できている。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、耐用年数はまだ迎えていないものの、取得後、年数が経過している償却資産が増加傾向にある中、管路については、下水道管の布設工事に併せて老朽化した水道管の更新を行うことで、費用面や工程面において効率的な管更新の実施を図っている状況であり、②管路経年率及び③管路更新率は平均値よりも低い水準となっている。今後も急激な財政負担とならないよう、計画的な更新を図っていく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

本町の水道事業は、給水原価が供給単価を上回り、料金回収率が60%前後を推移している状態が続いており、非常に厳しい経営状況であると言える。そのような状況下で、健全で安定的な経営を図るために、経費削減策として令和5年度から隔月検針を実施しているが、これ以外にも様々な経費削減に積極的に取り組む必要がある一方で、適正な料金水準とするため、料金の増額改定の実施を行うことが必要となっている。